

I 調査結果の概要

1 漁業・養殖業生産量

平成29年の我が国の漁業・養殖業の生産量は430万6,399 tで、前年に比べ6万1,835 t（1.4%）減少した。

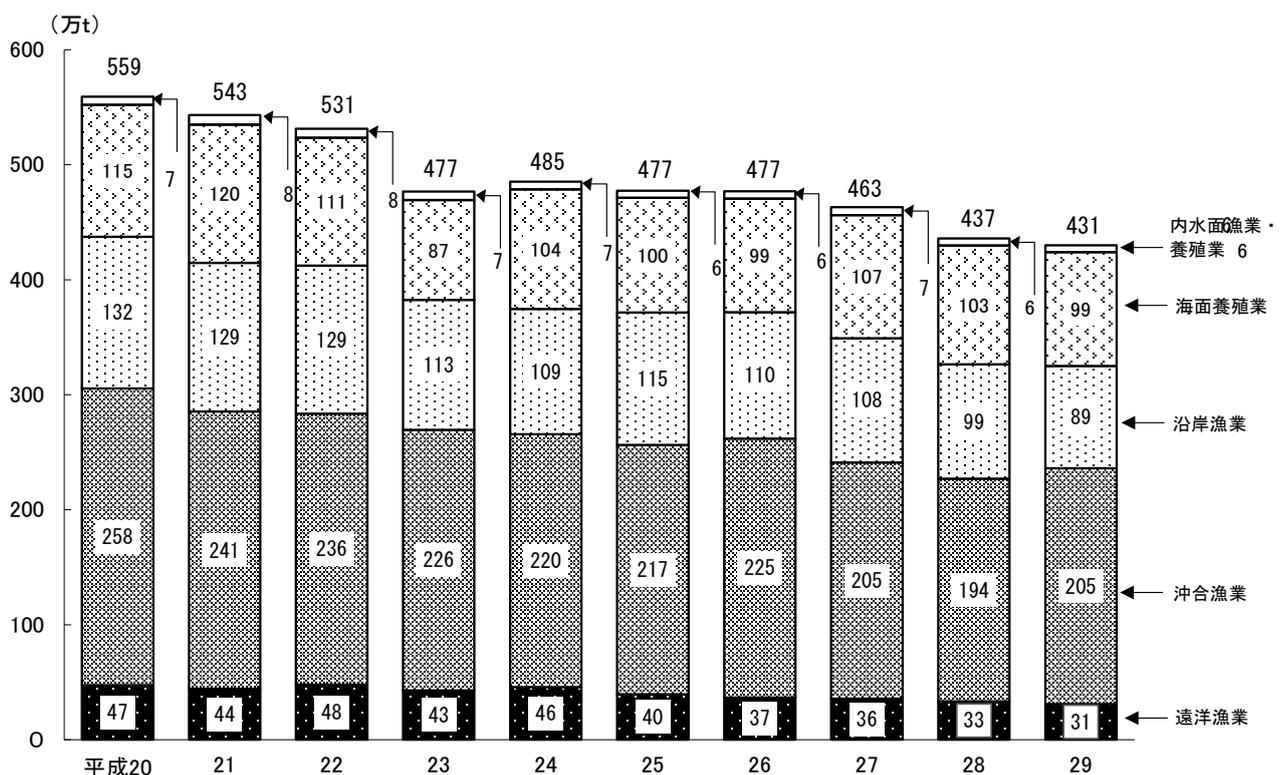
このうち、海面漁業の漁獲量は325万8,289 tで、前年に比べ1万4,274 t（0.5%）減少した。

これを部門別にみると、遠洋漁業は31万3,734 tで、前年に比べ2万127 t（6.0%）減少、沖合漁業は205万1,548 tで、前年に比べ10万6,593 t（5.5%）増加、沿岸漁業は89万3,007 tで、前年に比べ10万740 t（10.2%）減少した。

また、海面養殖業の収穫量は98万6,056 tで、前年に比べ4万6,481 t（4.5%）減少した。

内水面漁業・養殖業の生産量は6万2,054 tで、前年に比べ1,081 t（1.7%）減少した。

図1 漁業・養殖業生産量の推移



注：表示単位で四捨五入しているため、合計値と内訳が一致しない場合がある（以下同じ。）。

2 海面漁業

海面漁業の漁獲量は325万8,289 tで、前年に比べ1万4,274 t (0.5%) 減少した。

東日本大震災で漁船や漁港施設に甚大な被害を受けた岩手県の漁獲量は7万5,792 tで、前年に比べて9,377 t (11.0%) 減少、宮城県の漁獲量は15万8,328 tであり、前年に比べて4,863 t (3.0%) 減少した。

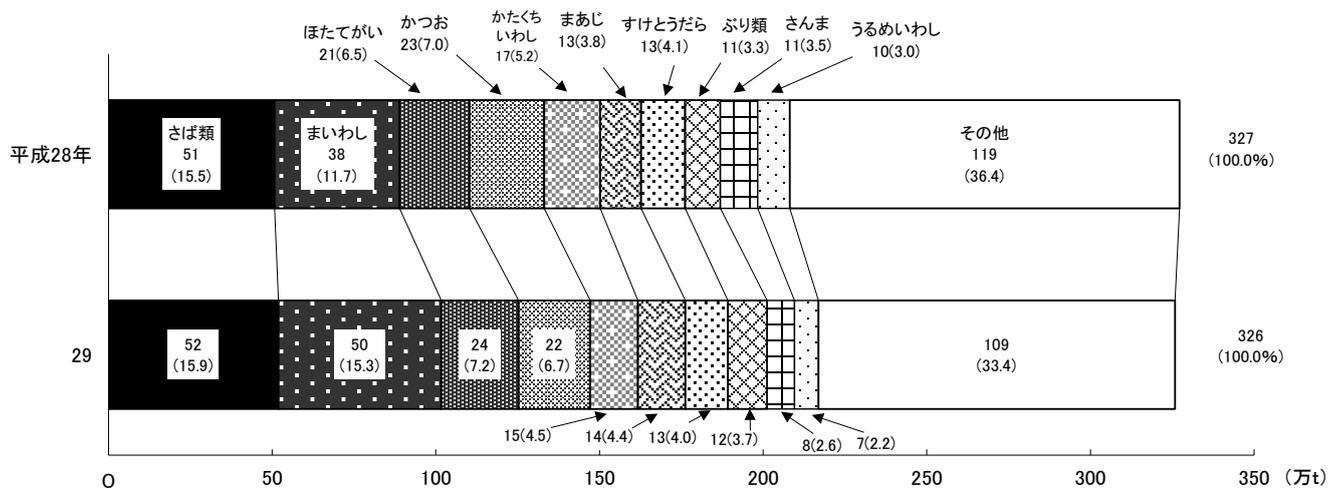
また、福島県の漁獲量は5万2,859 tであり、大中型まき網1 そうまきその他のまき網等で漁獲量が増加したことから、前年と比べ4,747 t (9.9%) 増加した。

主要魚種別漁獲量

海面漁業の魚種のうち、漁獲量が前年に比べて増加した主な魚種は、まいわし、ほたてがい、まあじ、さば類、ぶり類であり、減少した主な魚種は、さんま、さけ類、うるめいわし、かたくちいわし、こんぶ類であった。

この結果、海面漁業の漁獲量に占める主要魚種の割合は、さば類が15.9%、まいわしが15.3%、ほたてがいが7.2%、かつおが6.7%、かたくちいわしが4.5%、まあじが4.4%、すけとうだらが4.0%、ぶり類が3.7%、さんまが2.6%、うるめいわしが2.2%となった。

図2 海面漁業主要魚種別漁獲量



(1) さば類

漁獲量は51万8,848 tで、前年に比べ1万1,577 t (2.3%) 増加した。
これは、長崎県、宮崎県等で増加したためである。

(2) まいわし

漁獲量は49万7,963 tで、前年に比べ11万5,862 t (30.3%) 増加した。
これは、茨城県、千葉県等で増加したためである。

(3) ほたてがい

漁獲量は23万5,952 tで、前年に比べ2万2,242 t (10.4%) 増加した。
これは、漁獲量のほとんどを占める北海道で増加したためである。

- (4) かつお
漁獲量は21万8,977 tで、前年に比べ8,969 t (3.9%) 減少した。
これは、三重県等で減少したためである。
- (5) かたくちいわし
漁獲量は14万6,082 tで、前年に比べ2万5,094 t (14.7%) 減少した。
これは、愛知県等で減少したためである。
- (6) まあじ
漁獲量は14万4,955 tで、前年に比べ1万9,678 t (15.7%) 増加した。
これは、長崎県等で増加したためである。
- (7) すけとうだら
漁獲量は12万9,269 tで、前年に比べ4,967 t (3.7%) 減少した。
これは、青森県等で減少したためである。
- (8) ぶり類
漁獲量は12万348 tで、前年に比べ1万2,677 t (11.8%) 増加した。これは、長崎県、宮城県等で増加したためである。
- (9) さんま
漁獲量は8万3,803 tで、前年に比べて3万25 t (26.4%) 減少した。
これは、北海道等で減少したためである。
- (10) うるめいわし
漁獲量は7万2,669 tで、前年に比べて2万5,549 t (26.0%) 減少した。
これは、長崎県等で減少したためである。

図3 海面漁業主要魚種別漁獲量の推移 (上位1位～5位)

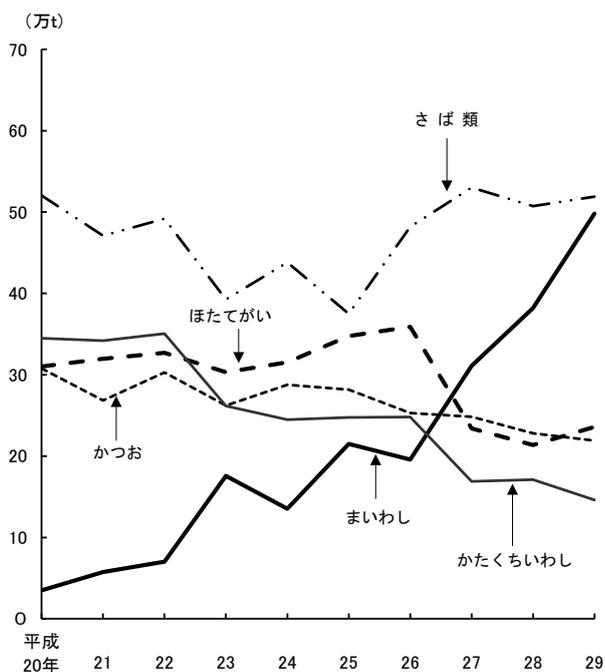
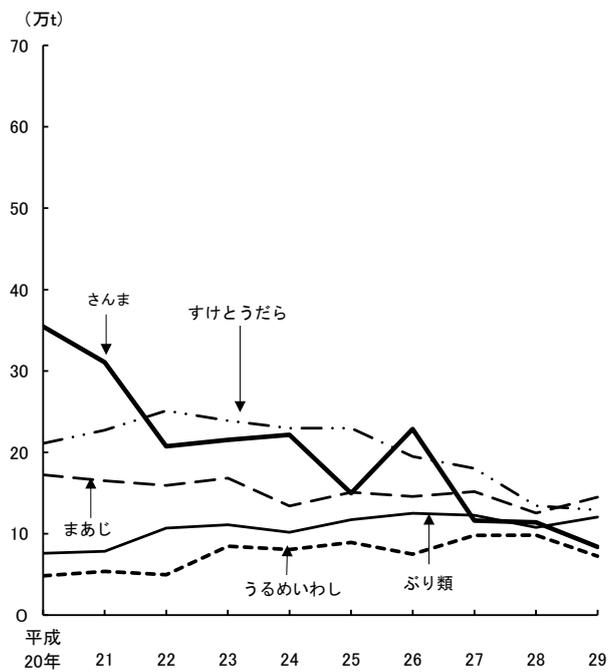


図4 海面漁業主要魚種別漁獲量の推移 (上位6位～10位)



3 海面養殖業

海面養殖業の収穫量は98万6,056 tで、前年に比べ4万6,481 t (4.5%) 減少した。

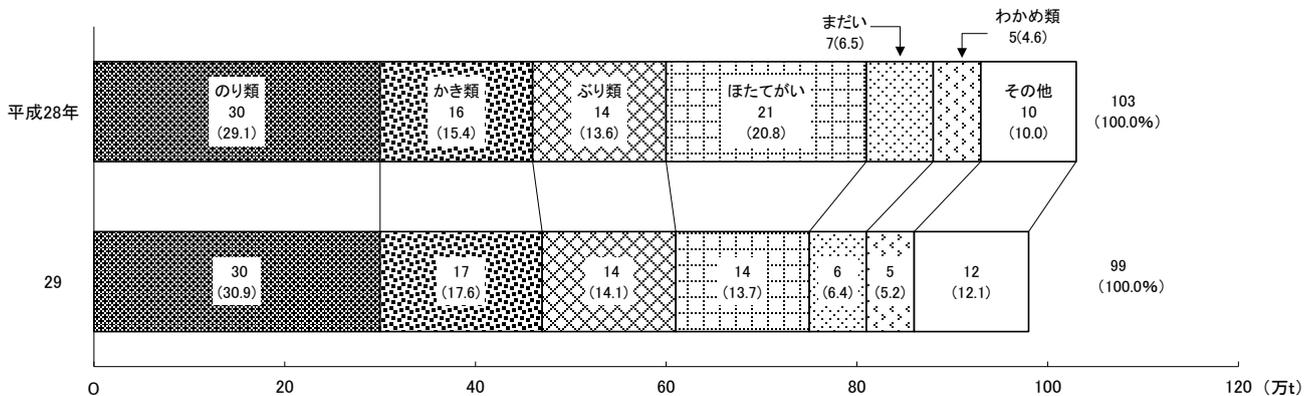
これは、ほたてがいが、まだい等が減少したためである。

東日本大震災の影響で養殖施設に甚大な被害を受けた岩手県の収穫量は3万7,439 t、宮城県の収穫量は9万1,418 tであり、岩手県は前年に比べて2,853 t (8.2%) 増加し、宮城県は前年に比べて6,872 t (8.1%) 増加した。

海面養殖業の魚種のうち、収穫量が前年に比べて増加した主な魚種は、かき類、こんぶ類であり、減少した主な魚種は、ほたてがいが、まだい等であった。

この結果、海面養殖業の収穫量に占める主要魚種の割合は、のり類が30.9%、かき類が17.6%、ぶり類が14.1%、ほたてがいが13.7%、まだいが6.4%、わかめ類が5.2%となった。

図5 海面養殖業主要魚種別収穫量



(1) 魚類

収穫量は24万7,633 tで、前年に比べ40 t (0.0%) 増加した。

ア ぶり類

収穫量は13万8,999 tで、前年に比べ1,869 t (1.3%) 減少した。
これは、愛媛県等で減少したためである。

イ まだい

収穫量は6万2,850 tで、前年に比べ4,115 t (6.1%) 減少した。
これは、愛媛県で減少したためである。

ウ ぎんざけ

収穫量は1万5,648 tで、前年に比べ2,440 t (18.5%) 増加した。
これは、宮城県等で増加したためである。

(2) 貝類

収穫量は30万9,437 tで、前年に比べ6万4,519 t (17.3%) 減少した。

ア ほたてがいが

収穫量は13万5,090 tで、前年に比べ7万9,481 t (37.0%) 減少した。
これは、青森県等で減少したためである。

イ かき類

収穫量は17万3,900 tで、前年に比べ1万4,975 t (9.4%) 増加した。
これは、広島県等で増加したためである。

図6 海面養殖業魚種別収穫量の推移 (魚類)

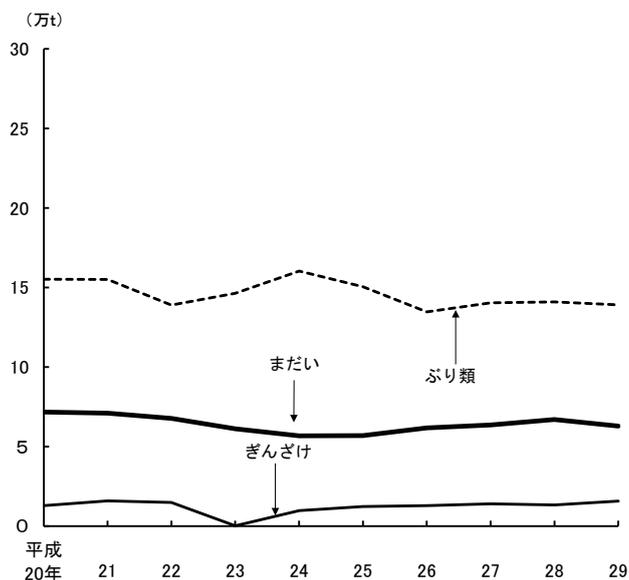
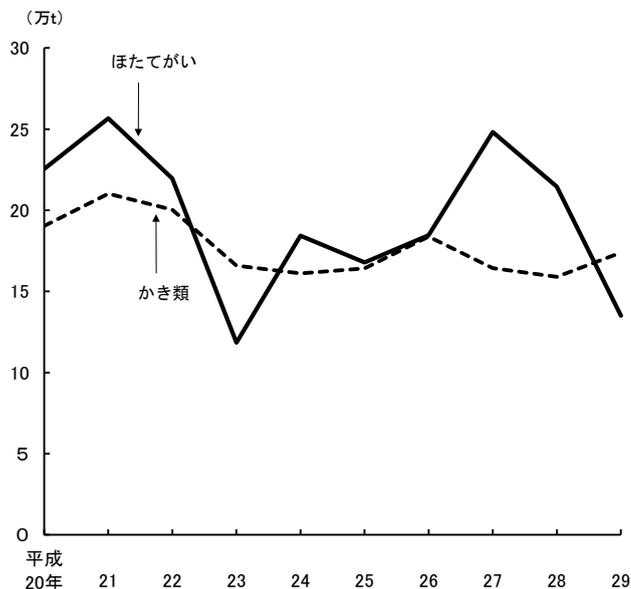


図7 海面養殖業魚種別収穫量の推移 (貝類)



(3) 海藻類

収穫量は40万7,835 tで、前年に比べ1万6,625 t (4.2%) 増加した。

ア のり類 (生重量)

収穫量は30万4,308 tで、前年に比べ3,625 t (1.2%) 増加した。
これは、熊本県、福岡県等で増加したためである。

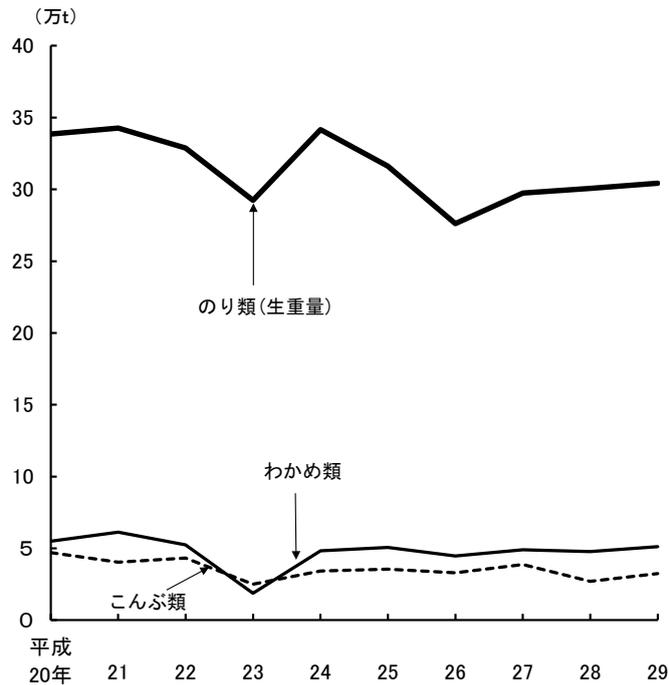
イ わかめ類

収穫量は5万1,114 tで、前年に比べ3,442 t (7.2%) 増加した。
これは、岩手県、宮城県で増加したためである。

ウ こんぶ類

収穫量は3万2,463 tで、前年に比べ5,395 t (19.9%) 増加した。
これは、北海道、岩手県で増加したためである。

図8 海面養殖業魚種別収穫量の推移（海藻類）



4 内水面漁業

内水面漁業（全国の主要112河川及び24湖沼）の漁獲量は2万5,215 tで、前年に比べ2,722 t（9.7%）減少した。

(1) 河川・湖沼別漁獲量

河川における漁獲量は9,812 tで、前年に比べ2,290 t（18.9%）減少した。

また、湖沼における漁獲量は1万5,403 tで、前年に比べ432 t（2.7%）減少した。

(2) 主要魚種別漁獲量

ア しじみ

漁獲量は9,868 tで、前年に比べ288 t（3.0%）増加した。

イ さけ類

漁獲量は5,802 tで、前年に比べ1,669 t（22.3%）減少した。

これは、北海道等で減少したためである。

ウ あゆ

漁獲量は2,168 tで、前年に比べ222 t（9.3%）減少した。

エ わかさぎ

漁獲量は943 tで、前年に比べ238 t（20.2%）減少した。

これは、青森県等で減少したためである。

オ しらうお

漁獲量は561 tで、前年に比べ24 t（4.1%）減少した。

これは、青森県等で減少したためである。

図9 内水面漁業主要魚種別漁獲量

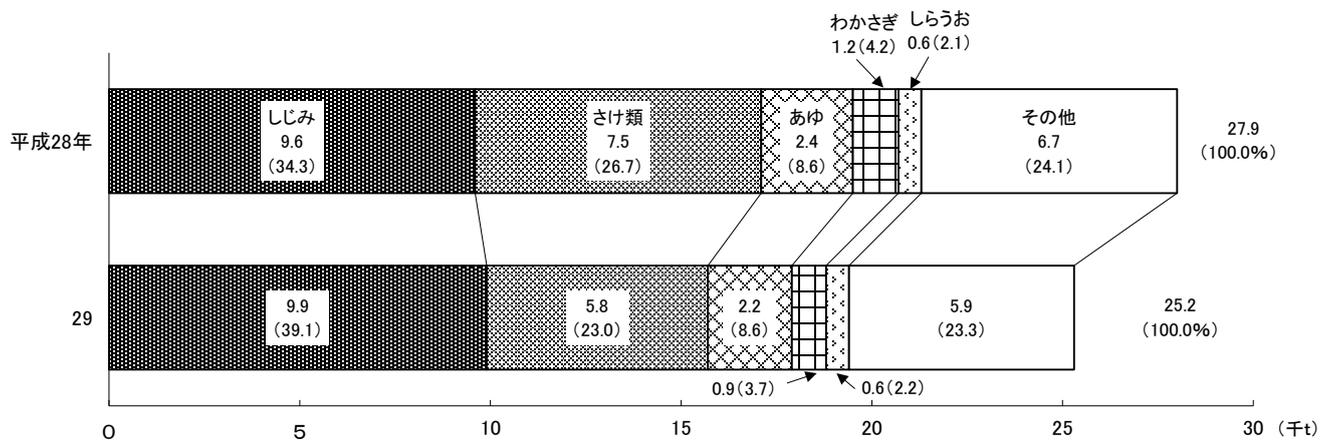
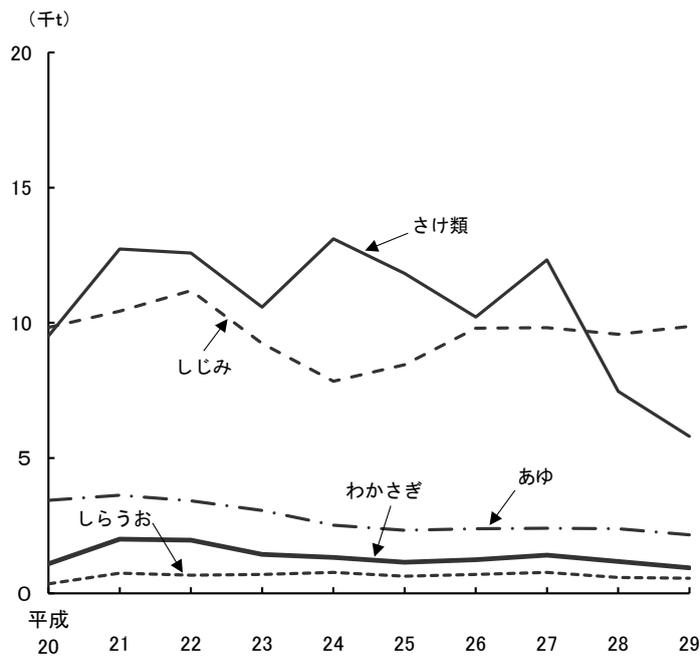


図10 内水面漁業主要魚種別漁獲量の推移



5 内水面養殖業

内水面養殖業の収穫量は3万6,839 tで、前年に比べ1,641 t (4.7%)増加した。

(1) うなぎ

収穫量は2万979 tで、前年に比べ2,072 t (11.0%)増加した。

これは、鹿児島県、愛知県等で増加したためである。

(2) あゆ

収穫量は5,053 tで、前年に比べ130 t (2.5%)減少した。

